



有限会社 美杉倶留尊高原農場  
代表取締役

井上 司さん

## 第二のふるさとのように感じていると思います。

……クラインガルテンとは？

ドイツ語で「小さな庭」を意味する滞在型市民農園です。城山クラインガルテンの場合はロフト付きのラウベ（小屋）と畑を貸し出し、滞在しながら畑づくりができるようになっています。そもそも、第二次世界大戦後、敗戦国となったドイツで始まったものです。ドイツは狩猟民族だったため農業が弱く、食品の輸入が途絶えたため、食糧難になりました。それで国の施策として、空いている土地を利用して、畑づくりを習うことで、自給自足の根本を教えるようになったのが始まりだと聞いています。

……普通の市民農園との違いは滞在型ということと、指導がセットになっていることでしょうか？

元々が国が国民に野菜づくりを教えることが始まりですから。城山クラインガルテンでも、スタッフが指導するというか、農業をしながら疑問に思ったことなどを、そのつど気軽に聞いて貰うようにつとめています。

……クラインガルテンを作ろうと思ったのは？

この辺りの自治会は2年毎に、年齢の順番に組長が回ってくるのです。たまたま、私が組長をさせていただいた時に、今、クラインガルテンがある土地が荒れていて、猿や鹿など野生の動物のすみかになっているので、何とかして欲しいという話がありました。その時に、「もしこ



ラウベ1棟につき、専用の畑がつきます。

こで何か事業をするなら、皆さん協力してくれますか？」と、全20戸の約束を取り付けました。

……すぐに着手したのですか？

それから3年ぐらい経ってからです。私も定年間近で、何か新しいことを始めたいと考えていました。それでいろいろ検討し、役場の職員さんにもアドバイスをもらった中から思いついたのがクラインガルテンでした。当時、クラインガルテンは国内に5カ所くらいしかなくて、役場の方からも「これから増えるのではないか」と聞きました。それまでは特産の農作物などを作ろうとか、考えたのですが、農作物は台風などの天候に左右されてしまうと思っていたので、クラインガルテンはその点もいいなあと。田舎の雰囲気を楽しみに、案外、お客さんも来てくれるかもしれないと思い、役場の職員さんとも交えて何度も会合をしました。資料も集めて、随分研究もし、平成10年5月にオープンしました。

……運営には自治会の全20戸が参加したのですか？

お勤めなどの都合もあり、最終的には9名が運営に参加してくれました。ほとんどがこの土地の地主さんです。この9名で土地も含めて、同額出資してもらい、有限会社美杉倶留尊高原農場を設立し、城山クラインガルテンを運営しています。私が皆さんの推薦を受けまして、代表取締役をさせていただくことになりました。

……行政からの出資は？

出資はありませんが、地盤工事を山村振興事業の予算で行ってもらいました。行政の方にはずいぶん、骨を折ってもらいました。通常、この事業は田圃の基盤整備や水路の確保、農道の作成などの事業がメインなのですが、ここは休耕田でしたので、休耕田の有効利用ということで事業に盛り込んでくれました。

……土地は会社が買い上げたのですか？

元が休耕田でしたから、「手入れをしてくれるなら、無料でいい」と地主さんたちには言われましたが、わずかですが賃貸料を支払って、お借りしています。ただ、整地し

た土地を田圃や畑に戻してお返しするのは大変なので、最終的には会社で購入する契約になっています。今はまだ会社の体力が無いので、待ってもらっている状態です。……まだクラインガルテンが日本でも数ヶ所しかない時にオープンしましたが、経営は順調でしたか？

ラウベが全部で27棟あるのですが、オープン当初から3年ぐらいは75%しか稼働していませんでした。常に5~7棟、空きがありました。5年目ぐらいから利用者が増えだして、ここ数年は満杯の状態です。

……利用者は週末などに訪れるのですか？

別荘代わりにしている人もいますし、年間300日ぐらい、ここで過ごしている方もいますよ。

……どの地域から来られているのでしょうか？

中京圏と近畿圏ですね。ここは名古屋からも、大阪からも車で3時間ほどかかります。利用者の方に言わせると「ちょっと遠い所へ来たな」という気持ちになる、ちょうどいい距離だそうです。

……利用者が増えたのはなぜでしょう？

オープン当初は、ここにクラインガルテンがあるという情報が広がっていなかったのでしょうか。見学に来られた人はたいてい、「こんな所に、こんな施設があったなんて」と言われます。あと、うちの利用者の方は何年間も継続される方が多く、オープン時から利用されている方が5~6名いらっしゃいます。

……居心地が良いのでしょうか。何か工夫が？

あれこれ規則を作って、縛らないということですね。必要な時にはきちんと注意しますが、隣近所のことはお互いに理解しあって、できるだけ快適に過ごしてもらえようとしています。私たちも利用者同士の交流になるよう、様々なイベントを企画していますが、5年くらい前からイベント内容を利用者同士が相談して、私たちに提案してくれるようになりました。もちろん、準備にも参加してくれます。イベントには利用者だけでなく、地元の人たちも参加して、一緒に楽しんでもらっています。

……地元の人との交流も盛んなのですか？

昔はこの地区も他の地域の人が入りづらい雰囲気があったのですが、今はすっかりうち解けていますよ。スタッフより、地元の人との交流の方が多いいです。というのもクラインガルテン内の畑では手狭になり、もっと作物を作りたいという方のために、地元の休耕田を借りているのですが、それが地元の人たちの田畑と同じ所にあるのです。作業をしていると、休憩とかが一緒になり、その内に「どこから来たんやん?」「何作ととるんや?」と話がはずんで、交流ができています。利用者の方も、田舎暮らしをしようと、ここに来ている人たちですから、農作物の育て方についての質問など、積極的に声を掛けますね。地元の人も、クラインガルテンの人は作業の仕方などを教えると、その通りにしてくれますから、教えがいがあるようです。

……この生活を体験できる企画はありませんか？

1泊一人1000円で宿泊してもらえ体験棟を用意しています。この辺りを散策してもらったり、自由にのんび



ラウベの外観と内装。すべてロフト、風呂、トイレ、キッチン完備です。



り過ごしてもらえます。また、平成19年の10月から、津市の依頼を受けて、田舎暮らし体験塾という企画も行っています。こちらは最終的には、田舎へ移住する方を増やそうという目的で行っています。

……実際、移住された方はいますか？

昨年末に体験されたご家族が、この3月に引っ越してこられる予定です。私どもの方で、空き家を紹介してもらいました。5人のお子さんがいらっしゃるの、小学校も賑やかになると喜んでます。

……経営状態はどうですか？

今、全国で150カ所くらいクラインガルテンはありますが、ほとんどが行政直轄や第三セクターです。民間で独自の経営をしているのはうちと、静岡県のみたば農園ぐらい。クラインガルテンは地盤工事などに資本がかかるため、それを回収するのが大変なのです。普通の企業が、金儲けのためにするのは相当、無理があります。行政などが運営する場合、地域の活性化や人口増加を目的にしていますから、経営度外視で運営できます。そのうえ、利用料も割安。うちの利用料は当初、年間60万円。これは国内でも一番高いくらいでした。でも、近隣にクラインガルテンが増え、途中から利用料を値下げし、50万円にしました。

……利用者に人気があるのはなぜでしょう？

やはり、居心地の良さでしょう。一度、別のクラインガルテンに移ってから、「やっぱり、ここがいいよ」と、戻って来られた方も数名います。地元にも馴染んで、今ではみんな、地域の一員。第二のふるさとのように感じてもらえていると思います。



毎週、大阪から通っているというご夫婦。季節感を堪能できるクラインガルテンの生活に大満足されています。